

## レベルⅡ 胎児心臓超音波検査 オンライン多施設間全国登録について

日本胎児心臓病学会 総務委員会 1)

長野県立こども病院 循環器小児科 2)、三重大学産婦人科 3)、徳島大学産婦人科 4)、豊中市民病院小児科 5)、大阪市立総合医療センター 小児循環器科 6)、近畿大学小児科 7)

瀧間浄宏 1), 2)、池田智明 1), 3)、武井黄太 1), 2)、加地剛 1), 4)、河津由紀子 1), 5)、川崎有希子 1), 6)、稲村昇 1), 7)

【目的】学会が主体となっていて行っているレベルⅡ 胎児心臓超音波検査の多施設間オンライン登録を解析、報告する。【対象と方法】2004年10月1日より2019年12月31日に登録されたレベル(Ⅱ) 胎児心臓超音波検査 70166件。全89施設。うち胎児心臓専門施設は59施設。経年変化数、各県の登録数、疾患分類別の検査割合等を調べて解析した。【結果】経年的に登録は増加、2009年頃まで1500-2000件前後だったものが近年は10000件に登り(2019年は11833件)、疾患分類では先天性心疾患が26961件38%、正常が20844件35%、不整脈が3606件5%、心外異常7293件10%で経年的には先天性心疾患の割合がやや減少した。各県の登録数は、大都市圏の東京、大阪、神奈川、そして長野、福岡が上位で10968、8296、5751、3331(神奈川、長野は同数)件であった。先天性心疾患の内訳では、VSD4773件、SRV1725件、SLV363件、DORV2871件、HLHS2259件、AVSD2343件、TOF2610件で、四腔断面の異常を示すものが多いのが特徴であった。しかし、dTGA1503件(5.5%)、Simple CoA996件、IAA479件と診断が難しいとされるものでは少なく、TAPVCは先天性心疾患の334件(1.2%)であった。経年的にdTGA、CoAの件数は増加、TAPVCの横ばいは変わらない。不整脈についてはPAC13339件、完全房室ブロック397件等であった。【結語】胎児オンライン登録は認証医制度設立以降、著明な増加している。レベルⅡ胎児登録の維持を継続するとともに検査の質の向上を目指す必要がある。